

令和7年度スタッフ発表会を開催します

日時：令和8年3月4日(水)～6日(金)

会場：病院外来診療棟 2階ギャラリー

九州大学病院きらめきプロジェクト 令和7年度スタッフ発表会

九州大学病院きらめきプロジェクト所属のスタッフが1年間の活動をポスターでご報告します。仕事とプライベートの両立をどのように行ってきたかなど医師、歯科医師たちの奮闘ぶりをご覧ください。

日時：令和8年 **3月4日(水)～6日(金)**

会場：九州大学病院外来診療棟 2階ギャラリー

一般の方もお気軽にお立ち寄りください。
～開催中でも、本会場は通常通り、
休憩スペースとしてご利用いただけます～



多くの皆様のお越しをお待ちしています。

九州大学病院 臨床教育研修センター
きらめきプロジェクト
〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1-1

TEL・FAX：092-642-5203

E-mail：kirameki@jimu.kyushu-u.ac.jp

URL：https://www.kiramekipj.kyushu-u.ac.jp/



年頭のご挨拶を申し上げます。

新年明けましておめでとうございます。
きらめきプロジェクト副プログラム責任者を務めております、消化管外科の永吉絹子です。
日々の診療・教育・研究に加え、出産・育児、介護、ご自身やご家族の健康など、さまざまなライフイベントと向き合いながら働かれている先生方、そして現場を支えてくださっている多職種の皆様に、心より敬意を表します。
私自身は二児の母であり、きらめきプロジェクトを利用して臨床復帰を果たしたOGの一人でもあります。復帰に際しては、「キャリアを続けたい気持ちはあるのに体力や時間が足りない」「周囲に迷惑をかけるのではないかと悩んでおりましたが、その解決の糸口を見出してくれたのが、このきらめきプロジェクトでした。
また本プロジェクトは、単なる臨床復帰の機会にとどまらず、大学病院という恵まれた環境の中で経験を積み、キャリア継続に向けた準備を整える場としても、非常に有意義なものでした。医療の質を高め続けるためには、個々の頑張りだけに依存するのではなく、「無理なく続けられる仕組み」を皆で整えることが欠かせません。担当医の交代や勤務調整、学位・専門医取得の計画、復職のタイミング、保育・介護との両立など、悩みは人それぞれ異なります。きらめきプロジェクトは、困りごとが生じてからの対応にとどまらず、キャリアを描き直し、つなぎ直すための選択肢を広げることを目指して活動しています。
今年も、相談しやすいの向上や情報の見える化、利用しやすい制度運用を進めてまいります。どうぞ遠慮なく、現場の「こうだったら助かる」という声をお聞かせください。
本年が皆様にとって健やかで、希望に満ちた一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。



日々頑張っている、きらめきプロジェクト所属のドクターを紹介します



卒後17年目の内科医です。現在、年少～小学生まで3人の育児中です。卒後8年目までは都内の出身大学の医局に所属し、大学病院および関連病院で臨床経験を積んでおりましたが、結婚・出産を経て、夫の勤務にあわせて福岡へ転居して参りました。出身校の教授より九州大学を紹介して頂き、7年前に1度目のきらめきプロジェクトへ所属しました。週2回の専門外来を担当させて頂く中で、診療における日々の疑問などを臨床研究としてまとめられないかと思うようになり、所属約一年半後に、大学院へ進学し、臨床研究や学会発表に取り組みました。昨年で大学院生として必要な研究期間の目処もつきましたため、現在2度目となるきらめきプロジェクトに所属させて頂いております。きらめきプロジェクトのおかげで、育児中の短時間勤務の身でも、大学でないと経験できないような専門的な医療や研究を継続して行うことができたことに大変感謝しております。私生活では、以前は乳幼児を抱えて精一杯の日々でしたが、長子の小学校生活は終わりが見え始め、末っ子も年少となり、育児が一段階進んだことを感じております。残る所属期間でも専門外来を通して引き続き臨床力を培いつつ、これまでの経験を生かせるよう今後の働き方について検討していきたいと思っております。



卒後10年目の眼科医です。初期研修修了後、九州大学眼科に入局し、以後関連病院で勤務してきました。現在は高齢の母と妹の3人で暮らしています。2025年4月より、きらめきプロジェクトに参加させて頂いております。2020年初めに父の癌が見つかり、約5年にわたる闘病生活を家族で支えてきました。私は後半、手術件数の多い北九州の病院に勤務していました。父の体調悪化に伴い北九州と福岡市の実家を往復しながら、入退院の付き添いや身の回りの世話を行っていましたが、一昨年、父は突然急逝しました。長期間の闘病と突然の別れにより、家族皆が心身ともに疲弊し、母も体調を崩し、家事の介助や通院の付き添いが必要な状態となりました。私自身、多忙な勤務による疲れと家庭の状況が重なり、当直を含む常勤勤務を続けながら母の生活のサポートを行うことは難しいと感じるようになりました。そこで医局の先生方にご相談したところ、きらめきプロジェクトをご紹介いただきました。子育て中の先生方が多い印象でしたが、事情を丁寧に聞いてくださり、温かく受け入れていただきました。現在は大学病院で病棟・外来を含め週3日の時短勤務と、週1日の外勤を行っています。毎日半日勤務とすることで、家庭の状況に合わせながら無理のない範囲で診療を継続することができています。このような働き方にご理解とご配慮をいただいている医局の先生方、きらめきプロジェクトの先生方に心より感謝申し上げます。今後も日々の診療に真摯に取り組んでいきたいと思っております。

